

2023年11月11日

## 明治維新以降の日本の盛衰と日本の半導体産業の盛衰とのアナロジ

群馬大学 小林春夫

日本は明治維新以降 近代化し、日清・日露戦争で勝利し、第1次世界大戦で漁夫の利を得る。日露戦争では日英同盟で英国の支援を得て、講和では米国の協力を得る。

が、その後米英に警戒される。日中戦争では欧米は援蒋ルートで中国を支援。さらに ABCD 包囲網で太平洋戦争に突入、完膚なきまでに負かされる。

戦後まもなく 米国は朝鮮戦争で日本を味方と位置づけ後方支援をさせる。日本経済は朝鮮特需で復興する。

日本の半導体産業は黎明期から米国から技術を学びどんどん成長していく。やがて米国を凌駕し半導体シェアで世界一となる。米国は日本をライバル視し技術流出を警戒し様々な施策で日本の半導体産業・技術の封じ込めを図る。(協力・支援は少なくなる)。

日本の半導体産業は他国に比べて相対的に大きく衰退する。

しかし数年前からの米中デカップリングで 米国は日本をパートナーとみなす。日本は米国からの強い要請により半導体産業・技術に注力し、米国も日本を支援している。現在、日本の半導体分野は活況の状況にある。

太平洋戦争での敗北の遠因は、日露戦争での日本海海戦での完勝か。日本の半導体産業の衰退の遠因は、日本が半導体シェアで世界トップになったことか。

名を成すはつねに窮苦の日あり、事敗れること多くは得意の時による

渋沢栄一